

私はちゃんとやっている

—でも後が断たない—



見つめ直したい 犬との関係

最近、モラルの低下について叫ばれるようになりました。最近になって特に低下したというわけではないと思いますが、昔と比べ、周辺の環境が良く整備されるようになったため、それが目立つのでしょうか？ モラルの低下についてよくいわれるのは「犬のふん公害」と「空き缶のポイ捨て」です。六月の定例市議会の一般質問の中でもこれらのことが取り上げられました。

実際取材や行楽などで公園などに出かけると犬のふん、空き缶などが目に入ります。そこで今回は「犬」に関する諸問題を通して犬の飼い方について考えてみました。畑やごみの集積場を荒らしたり、公園や路上にふんをしたりしている犬を見かけることがあります。そうした場合、悪の根源は「犬」ということになりません。しかし、犬がそんなことをするのは飼い主の責任です。原因は犬であっても、責任は飼い主にあります。犬をしっかりとして、そのようなことがないようにさせること、また、もし起こってしまったら、飼い主がその後始末をするということは、犬を飼う人の最低のマナーではないでしょうか。一部の心ない飼い主の行為が、街の美観を損ねたり、マナーを守っている飼い主に肩身の狭い思いをさせたりしています。

大館は「秋田犬の発祥の地」、「忠犬八千公の生誕の地」であることから『犬のおおだて』を前面に出して、大館を売り込んでいきます。市民一人ひとりが本来身に付けているマナーを守り『犬のおおだて』に恥じない街にしていきたいものです。